

ふだん何気なく使っているリサーチ用語がグローバルには通用しない和製英語だったり、ただの社内用語だったことはありませんか？
それを知らずに使ってしまうと、思わぬ混乱や間違いを招いてしまうこともあります。
そこで、出版委員会で「リサーチ用語探偵団」を結成し、リサーチ用語をめぐる謎を探っていくことにしました。
ここで書いた解説は探偵団による暫定的な交通整理にすぎませんので、別のご意見がありましたら出版委員会までお寄せください。……………JMRA出版委員会

実 査後のミーティング



さて今、グループインタビューが終了しました。関係者間で「調査の振り返りをしよう」という時、どのような表現をしますか？

多くの場合、「デブリーフィング」と表現されるようですが、「ラップアップ」「アフターミーティング」「まとめ」「反省会」…会社や担当者によって、言い方もそれぞれようです。

そもそも「デブリーフ(debrief)」とは、「情報を聞き出す」「報告を受ける」などの意味があります。また、『マーケティング・リサーチ用語辞典』によると、「定性調査のリサーチャーによる非公式な口頭による報告」とされています。

では、「デブリーフィング」に似た単語の「ブリーフィング」は、どのように使われるのでしょうか？

「brief」は動詞で「要約する」「概要を伝える」という意味があります。クライアントから調査会社への企画段階での打ち合わせ、オリエンテーションが当てはまります。

調査前 調査後
ブリーフィング ⇄ デブリーフィング

ミーティングの呼び方ですから、正しい、間違いといった性質のものではありませんが、正しい意味を知っておけば、混乱なくて済むのではないのでしょうか。

調 査票の自由回答の略称



「自由回答」の略称をどのように表現していますか？
調査会社によっても表現は異なるようです。

日本語のマーケティング・リサーチの書籍によく出てくるのは、OA(Open Answer)やFA(Free Answer)です。OAを文章による回答、FAを数字による回答というように、同じ「自由回答」でも回答形式の違いで略称を分けて紹介している書籍^(*)もあります。数字による回答については、NA(Numerical Answer)と表現する調査会社もあります。

一方、米国のMarketing Research Association(MRA)のホームページ(<http://www.marketingresearch.org>)の用語集では、自由回答形式の設問を“Open Ended Question”と表記しており、こうした英語圏の表現にならって、OEを使う会社もあります。

これらの表現のどれが正しい・間違いということはありません。略称は便利ですが、相手に間違って認識されると危険です。何を略したつもりか術語なのかを、あらかじめ関係先にお知らせするようにしましょう。

参考文献

^{*}2:酒井隆(2004)『図解 アンケート調査と統計 解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター